

節分と恵方巻

2月3日の節分は立春の前日をさす。
古くは立春を1年の始まりとしたため、大晦日と同じように考えられていました。
節分の夜に恵方巻「太巻き(巻き寿司)」を丸かぶりすると、その年は幸運がめぐってくる
と言い伝えられています。

「恵方巻」という名称は、1989年にセブン-イレブンが広島県から販売をはじめ、今では全
国各地で発売されている。今年で26周年を迎える。それ以前は「丸かぶり寿司」などと呼
ばれており「恵方巻き」と呼ばれていたという文献等は見つかっていない。



2015年の恵方は「西南西」
恵方とは十干(じっかん)により、その年の幸運を招く
方向のこと。恵方は毎年変わります。

恵方巻は、無火災からその年の健康を祈る縁起物とし
て食べられていました。
関西の一部では「縁を切らない」という理由から恵方(え
ほう)を向いて、切らずに食べる(まるかぶりする)風習が
生まれたといわれています。



縁起がいいといわれる八品目の素材

<u>昆布</u>	「養老昆布」と書いて「よろこぶ」と読み、不老長 寿とお祝いの縁起物として広く用いられてきま した。	<u>おぼろ</u>	おぼろに入っている海老は、腰を曲げた姿 から長寿を保つ老人を連想させ長寿の象徴 といわれています。
<u>かんぴょう煮</u>	江戸時代には上層階級の上品な食べ物として 重用されました。	<u>椎茸煮</u>	神様へのお供えとして用いられた椎茸は、 元気、壮健への願いが込められています。
<u>酢蓮根</u>	たくさんの穴が「先を見通す」として、明るい未 来を願う縁起物として用いられています。	<u>厚焼き玉子</u>	黄色は黄金に通じる事から金運上昇の 縁起物とされています。
<u>穴子</u>	身の長い穴子は「永続」を象徴し、健康長寿 の縁起物として用いられています。	<u>きゅうり</u>	「九の利を得る」に通じるため、利益が多く あるよう願いを込めています。